

みんなの健康ラジオ

『前立腺がんの放射線治療』

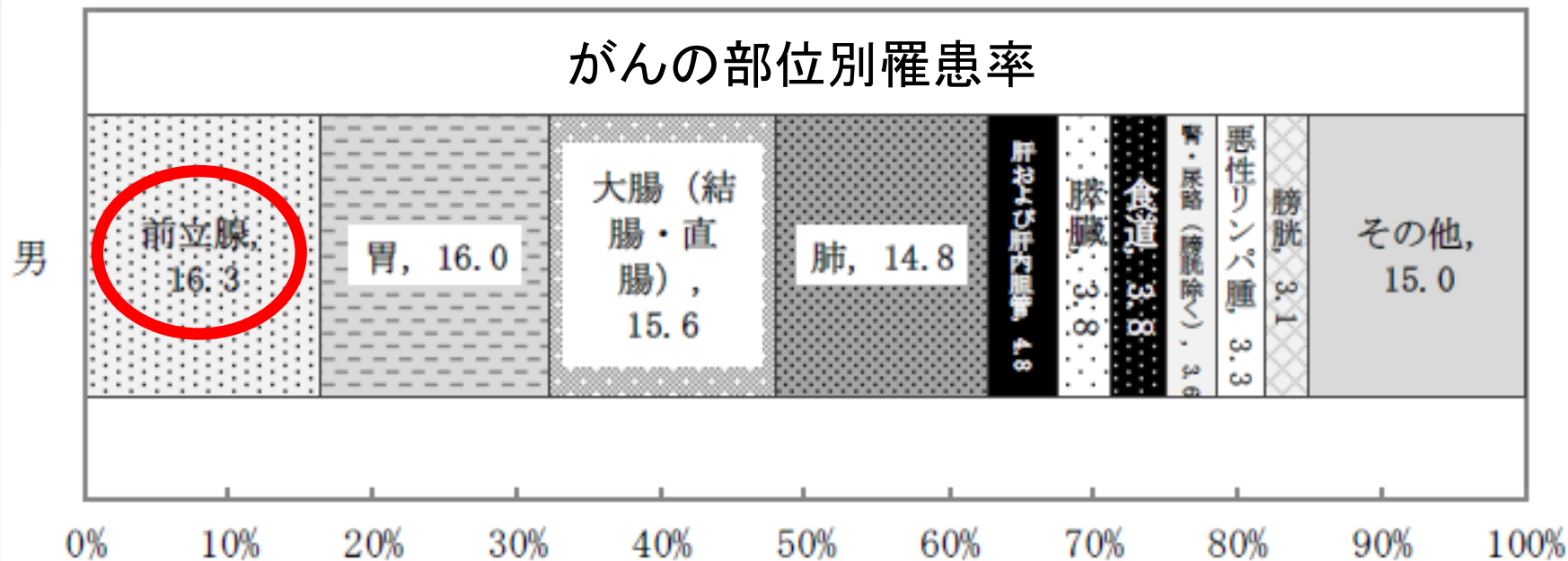
(2021年7月1日放送)

横浜放射線医会

横浜市立大学

幡多 政治

増加の著しい前立腺がん



厚生労働省 2017年
「全国がん登録 罹患数・率 報告」より

- 前立腺がんは男性のがんの部位別罹患率第一位！
- 年々増え続けており、食生活の欧米化（動物性脂肪の摂取量の増加）、高齢化、腫瘍マーカーのPSA検査の普及などが影響していると言われている。

治療法

➤ 手術

➤ 放射線治療

✓ 外照射

✓ 小線源治療

- 根治治療として選択される。
- 手術と放射線治療の治療成績はほぼ同じ。
- 前立腺がんは高齢者に多いため、体への負担の少ない放射線治療が選択されることが多い。

➤ 内分泌治療（ホルモン治療）

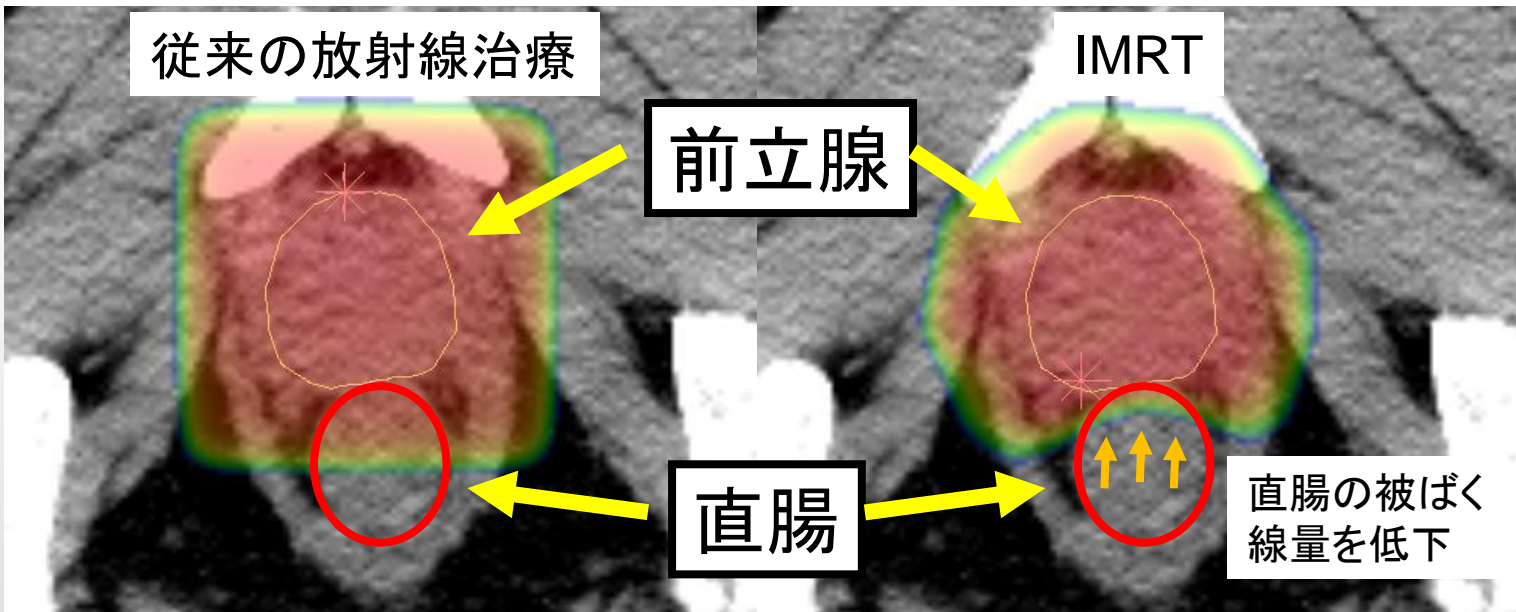
一時的にはよく効くが、徐々に治療効果が減弱する可能性がある。

※悪性度の低いがんには、積極的な治療を行わず経過を観察する監視療法が選択される場合がある。

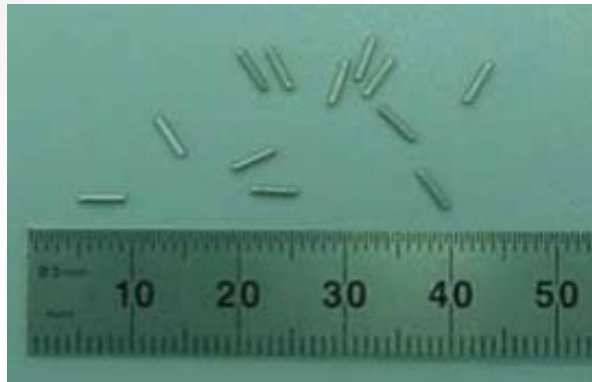
放射線治療：外照射



- 体の外から前立腺に放射線をあてる非侵襲的な治療法。
- 1日1回、平日毎日、4～8週間ほど外来通院で治療を行う。
- 先進の強度変調放射線治療 (Intensity-Modulated Radiation Therapy, IMRT) などの技術を使うと、前立腺周囲の直腸などの被ばく線量を大幅に低下させることができる→直腸潰瘍などの副作用が減る。



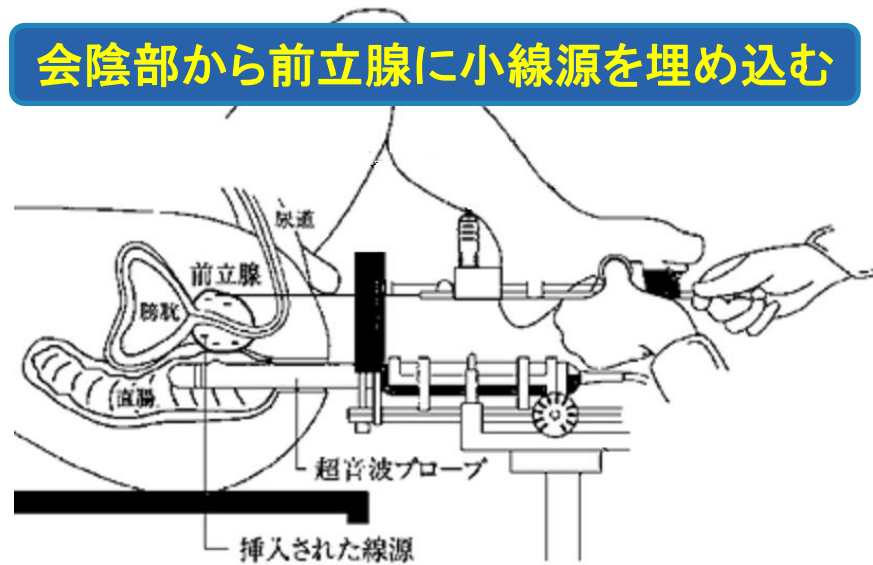
放射線治療：小線源治療



使用される小線源

(小さな金属のカプセルの中に放射線を出す物質が封入されている)

会陰部から前立腺に小線源を埋め込む



前立腺内の小線源
(前立腺の大きさに合わせて
50~100個程度埋め込まれる)



- 全身麻酔下に行われる(腰椎麻酔で行う施設もあり)。
- 3日ほど入院が必要だが、退院後すぐに社会復帰が可能。
- 前立腺内部で約1年かけて放射線が照射される。永久に前立腺内に留置され、通常取り出す必要はない。

外照射 or/and 小線源治療

- 患者さんの病状や希望によって、外照射と小線源治療のどちらかが選択される。
- 外照射と小線源治療の両方を行うと、より多くの放射線を効果的に前立腺にあてることができる。そのため、当院では再発リスクの高い方に対して治療成績の向上を目指し、両者を用いる併用療法を積極的に採用している。

放射線治療は、高齢者や重い合併症をお持ちの方でも、比較的安全に行える体に優しい治療です。これから一層高齢化が進む社会において、放射線治療が担う役割は益々大きくなると思われます。